

全日本アド連30年度・第22回 総会「開会あいさつ」

皆さん、こんにちわ。今年も、早6月下旬、美しい松島の緑が一層色濃くなり、自然も人々も天地の恵みあふれる季節となりました。全国各地から、身銭と貴重な時間を費やして、ご参加いただきました仲間の皆様のご出席を得て、この一年の活動を振り返り反省しながら、新しい30年度の計画・予算を立てる事ができますこと、誠に感謝に耐えません。

さて、未曾有の東日本大震災から、早7年3か月が経過しました。3月の震災特別番組を見ながら、あの津波に流される家や車の様子を、昨日のこのように思い出しました。死者・行方不明者18,434人。災害関連死を含めると22,081人に上ったと伝えていました。私は、テレビに涙しながら「頑張ってください」としか言えず、映像に向かって合掌して、犠牲になられた皆様のご冥福を心からお祈りし、残された皆様のご加護をお願いした処でございます。被災者の皆様には、一日も早い復興を願っております。

その仙台の地、松島で、記念すべき第22回全日本アド連総会・研究集会で開催するにあたり、昨年から多忙な中に時間を割いて、ご準備頂きました宮城県の仲間の皆さん、資料が多く、ご苦勞をお掛けしましたこと、深くお詫びを申し上げますと共に、今日までご尽力いただきました事に、心から感謝を申し上げます。

また、公務ご多用の中、日ごろから私たちの青少年育成運動に、ご理解とご支援を頂いております青少年のための宮城県民会議会長の三浦文夫様のご臨席を得て、この大会が開催できますこと、感激に耐えず、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

早いもので、私が会長に就任させていただいて、丸3年が経過し4年目を迎えました。その間、アドの認知度が低い。私たちの立位置が不明確。後継者の養成が急務。活動資金が無い。運動の範囲が広すぎて何をすべきか、焦点が定まらない、など、様々なご意見を頂いて参りました。これに答える為

先ずはマンネリ化した育成運動を見直し、我々が目指すべき「新しい旗」を建てる事。

第2にアド運動が目指すものを再確認して、周囲に理解して頂けるよう自ら行動すること

第3に何と言っても後継者の養成を図ること。

第4に組織の活性化を図るために、情報のパイプを太くして、共有し、切磋琢磨しあうこと。

第5に県民会議と連携して国民運動の再興をはかること

など、私自身の目標を作って、皆様にご支援ご協力をお願いし、共に努力を積み重ねて参りました。

それが、「ありがとう一日100回運動」であり「子どもが伸びるチャンスを活かす運動」であります。

国民会議の結成宣言を引用して、我らの基本目標を確認し、青少年を取り巻く社会や青少

年の現状を認識しようとしたのもこの為であります。

また、本当に受講生が集まってくれるか、充実した内容で実施できるか。赤字は出ないか？不安を一杯抱えながら、養成講座を継続実施し、各県でも入門講座を開催して頂きました。

内閣府の子ども・若者白書に育成ボランティア団体として掲載して頂いたのも、HPを開設し、会員バッチや名刺をつくり、紹介パンフレットやシール・のぼり旗をつくり、活用をお願いしたのもこの為であります。

更に、法律制定要望などとんでもないと厳しいご批判をいただきながらも「青少年健全育成基本法」の制定要望運動に取り組んだのも、この為であります。

中々、躍進しているほどの実感はありませんが、確実に前進しつつある姿は見えてきたと考えております。

この大会で、これら一連の運動を振り返りながら、新しい30年度に備えてご審議を頂きます。私も精魂を込めて、長い時間を掛けて議案を作成し、理事会でもご議論を頂いたつもりであります。どうか、忌憚のないご意見をいただき、より一層青少年育成運動が発展する総会となりますよう、お願いして開会のごあいさつと致します。よろしくお願い致します。